



161

昭和二十二年 月 日

### 死亡者調査表

昭和二十二年六月廿四日  
地方世話部製  
所管業務局製

部 長		隊 長		科 長		巡 帶 者	
部 長	部 長	隊 長	隊 長	科 長	科 長	巡 帶 者	巡 帶 者
整理 番 號	所 属 部 隊	固 有 名 義	種 兵	官 階	死 亡 時 間	死 亡 時 分	死 亡 時 刻
7	隊		兵 隊	兵 隊	昭和二十二年六月二十日	02時	02時
現 住 所	新 地	氏 名	級 等	年 齡	死 亡 時 分	死 亡 時 刻	死 亡 時 刻
現 住 所	新 地	氏 名	級 等	年 齡	死 亡 時 分	死 亡 時 刻	死 亡 時 刻
現 住 所	新 地	氏 名	級 等	年 齡	死 亡 時 分	死 亡 時 刻	死 亡 時 刻

◎本表中捺印の欄以外は世話部にて記入すること  
◎記載上の注意並に履歴欄は裏面にあり(記載上の注意をよく讀んでから記入のこと)

55-14

1821

一、現 認 證

所屬	固有姓名	中隊
	部隊通稱號	南十千下區安分隊
本籍地	現	補力
	現	補力
留守現任所	水	地
担當者續柄氏名	父	
死	入營應召年月日	昭十七年一月十日
死	階級進級	昭十七年一月十日 二等兵
死	內地港灣年月日	昭十七年八月十日 一等兵
死	外港港灣年月日	昭十七年四月四日 二等兵
死	主戰作戰名及時期	昭十九年 補力 昭十九年 向其 他
死	時職務	昭十九年 補力 昭十九年 向其 他
死	死亡年月日時	昭二十一年六月三日
死	死亡場所	昭二十一年六月三日 昭二十一年六月三日

22.10.10 受付

死亡原因	死	死亡原因	死
傷病名	米軍ト交戦ニテ	遺骨遺留	遺骨遺留
死前病状	死	功績	功績
死前所屬部隊	死	功績	功績

死七前 所屬部隊全滅ニナリ 桐ノトミテ山中ニアリシモ 遺棄隊  
 隊員トシテ奮戦中 東海岸ヲミラ井部 西方山中ニテ  
 米軍ト計ルニ戦ハ義恒トシテ戦死ス  
 死七認定理由  
 右之通り認定ス  
 所屬部隊  
 現住所  
 官等氏名印

備考  
 判明ニ成ルルニテ詳シク記載セシメ度ク  
 死七認定ノ理由ニハ其ノ確度(例ハ昭和十九年十月二日甲)ヲ示サレ度ク  
 早確定ナルモノ  
 丙 他人ヨリ示サレモノ

赤濱地

警備隊 第百師團 兵隊 運送 據 一〇六八三部隊

官澤原 死亡 運送 一 養兵 死亡 養兵 一 上等兵

年 月 日

一 役種 兵種 正次 二 國 五 昭 二 七

一 死亡 年月 日 時刻 昭和 廿 年 六 月 二 十 七 日 十 五 時

一 死亡 場所 所 比 島 シ ン ガ ナ 不 良 ブ キ ト ン 州 ク ラ マ ン 地 区

一 死 亡 区 分 戦 死 死

一 死 亡 原因 戦 死 死

一 遺 骨 有 無 無

一 遺 族 現 住 所 無

石 相 違 無 州 長 官 署

昭和 廿 二 年 四 月 廿 四 日 理 任 所

所 属 部 隊 第 百 師 團 工 兵 隊

認 認 者 官 等 氏 名 印 之 陸 軍 中 尉



現認(事實)證明書



本籍地 [redacted] 所属部隊 固有名 [redacted] 通稱名 [redacted] 部長

徵集年 [redacted] 兵種 [redacted] 兵種 [redacted]

死亡年月日 [redacted] 死亡時刻 [redacted] 氏名 [redacted]

[redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日生

- 一、死亡年月日時分 昭和三十年六月二七日 三時
- 二、死亡原因及傷者名 行軍中急死 (原因不明) 多摩川河畔
- 三、死亡場所 所北之島北郷 (河原町) 木下村
- 四、死亡状況 行軍中急死 (原因不明) 多摩川河畔
- 五、遺留品及遺留品の有無 遺留品 [redacted]
- 六、死亡に関する書類の有無 [redacted]

右の通り相違ない事を証明する

昭和三十年 四月 日 元所属部隊(固有名) [redacted] 通稱名 [redacted]

現住所 [redacted]

現職官等氏名 [redacted]

- 一、死亡者本籍地 [redacted]
- 二、留守担当者住所(親氏名) [redacted]

右の通り相違ないことを証明する

昭和二十二年 四月 日

[redacted]

現認書

本籍地

部隊名 陸軍上等兵

官等氏名 陸軍上等兵

死亡年月日 昭和二十一年六月三日

死亡場所 露島カガヤン平野ノウチノ東ノ三ノ目ノタノ村

死亡区 腹部射撃死

死亡理由 腹部射撃死

右現認書

備考

本籍地

部隊名 陸軍上等兵

官等氏名

# 死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所 石岡

所属部隊 一〇三飛大

職 階 昭 一五 官 階 大 軍 官 行 止

右ノ者昭和二十年六月二十一日 時

分 <sup>シゲル</sup> <sup>ニ</sup> <sup>於</sup> <sup>テ</sup> <sup>左</sup> <sup>ノ</sup> <sup>月</sup> <sup>以</sup> <sup>下</sup> <sup>ニ</sup> <sup>依</sup> <sup>リ</sup> <sup>戰</sup> <sup>傷</sup>

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十年六月十日

所属部隊 職 名 法 官 中 出

一〇三飛大 官 階 大

氏 名

注 一、死亡場所、受傷部位、病名等列明シアルモノハ詳記ス

一、署名の中、小隊長、班長、班長、班長等ト詳記ス

(封入)

17-11

1327



現認(事實)證明書

99-11

本籍地 [redacted]  
所属部隊 固有名義 [redacted] 通稱名 [redacted]  
徴集年 [redacted] 役種 [redacted] 兵種 [redacted]  
官等級 昭和 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日 氏名 [redacted]  
[redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日生

- 一、死亡年月日時分 昭和二十一年六月二十八日 午前 [redacted] 時 [redacted] 分
- 二、死亡原因及傷病名 死(マール下痢)
- 三、死亡場所 [redacted]
- 四、死亡状況 ① 昭和二十一年六月二十八日午前 [redacted] 時 [redacted] 分、  
本心通死(マール下痢)を起し、死後、  
② 本心通死(マール下痢)を起し、死後、  
[redacted]
- 五、遺骨及遺留品の有無 並に遺言(状況) [redacted]
- 六、死亡に関する書類の有無 [redacted]

右の通り相違ない事を證明する

昭和二十一年六月二十一日 元所属部隊(固有名) [redacted] 中隊  
(通稱名) [redacted]  
現住所 [redacted]  
舊職官等氏名 別名 [redacted]

- 一、死亡者本籍地 [redacted]
- 二、住所(遺言者)の [redacted] 氏名 [redacted] 石岡文 [redacted]

右の通り相違ないことを證明する

昭和二十一年六月二十一日 [redacted] 日  
[redacted] 村

138





昭和二十二年

月

日

(第

號)

生部第一批

# 死亡者調査表

昭和二十二年

月

日

製

保 長 認 定 本 部 隊 公 報 遺 骨

整理 番第	所屬部隊 所有姓名	職名	本籍地	留守 現住所	掛符者 続柄氏名	死亡年月日時	死亡原因	死亡直前の職務	遺骨遺留品の状況
	第 5 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	20年6月8日8時50分	敵弾	死に海由傷病名	遺骨遺留品の状況
	第 8 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]				
	第 1 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]				
	第 1 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]				
	第 1 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]				
	第 1 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]				
	第 1 隊 兵	兵	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]				

○本表中の印刷の欄以外は第一世話課にて記入すること  
 ○記載上の注意並に原簿には裏面にあり(記載上の注意をよく読んでから記入の事)  
 ○不備事項中判明しあるものは各班にて整備すること

判 決

此料入手の経路及所見

右現認す  
 現住所 [Redacted]  
 所屬部隊 [Redacted]  
 等 [Redacted]  
 氏名 [Redacted]

死亡者姓名記載

遺骨受付

未歸還

公

死七春恩認渡

親科夜	シラ所術	糸部	遺
猫渡	糸部	一 部	部
北			
北			
北			
北			

北	入管	昭和十九年七月十日
北	内地	昭和十九年九月十日
北	外	昭和十九年十月十日
北	北	昭和十九年十一月十日
北	北	昭和十九年十二月十日

2016  
付

右の通り認見付了

所術部限

官署長

154-11

戰死證明書

一、戰死者本籍地

[Redacted]

26-10

戶主名 姓

戶主

[Redacted]

氏名

[Redacted]

年 月 日生

二、所屬部隊

比内

派遣

三、戰死者徵集年 年 役種 陸軍 死亡前官階 陸軍 年 月 日 昭和 年 月 日

四、戰死年月日時刻及場所 昭和 年 月 日 時 分 於 地方 戰死

五、戰死現認ノ程度 死後 日 間 已 行 葬 禮

六、遺骨歸還ノ有無 歸還 あり

七、戰死當時ノ狀況ノ概要 比内 駐屯 隊 員 として 戦死 した こと であり 戦死 した 場所 は 地方 であり 戦死 した 時刻 は 昭和 年 月 日 時 分 であり 戦死 した 原因 は 戦死 した こと である

八、死亡區分

戦死 昭和 年 月 日 昭和 年 月 日

九、其ノ他

戦死 した こと であり 戦死 した 場所 は 地方 であり 戦死 した 時刻 は 昭和 年 月 日 時 分 であり 戦死 した 原因 は 戦死 した こと である

一〇、遺族ノ現住所

[Redacted]

戦死者ノ遺骨

男

氏名

[Redacted]

右ノ通り戦死シテ之ヲ証明候也

昭和 年 月 日

證明者住所

[Redacted]

戦死者ノ關係

同 隊 員 として 戦死 した

所屬部隊名

比内 駐屯 隊 員

氏名

[Redacted]

市町村長證明箇所





戰死證明書

一、戰死者本籍地

熊本縣 鹿野郡 鹿野町 鹿野

[Redacted]

戶主名 鹿野 氏名 [Redacted]

氏名

[Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生

二、所屬部隊名

山形 派遣隊 第七十八部隊 第二二二部隊

三、戰死者徵集年

昭和十一年 從軍 兵種 衛戍 兵 死亡前官等 陸軍 少尉 昭和九年七月 日

四、戰死年月日時及場所

昭和十一年六月二十日 鹿野 鹿野町 鹿野

五、戰死現認ノ程度

死 (遺骨 発見 あり)

六、遺骨歸還ノ有無

有

七、戰死當時ノ狀況ノ概要

敵機 襲撃 戦死

八、死亡區分

戦病死 事由 戦病死 登病年月日 昭和 年 月 日

九、其他

(戦死に非ざる者ニ限リ申立テ、部隊 遺棄 遺棄 申立 陸軍 少尉 昭和 年 月 日 及 陸軍 少尉)

三、遺族ノ現住所

[Redacted]

戦死者ノ親類 兄

氏名

[Redacted]

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和十一年二月二十日

證明者住所

[Redacted]

戦死者ノ關係

兄弟 鹿野 鹿野町 鹿野

所屬部隊名

山形 派遣隊 第七十八部隊 第二二二部隊

兵種 衛戍 兵

官等 陸軍 少尉

氏名

[Redacted]

市町村長證明箇所

右證明候也

昭和十一年三月十日

[Redacted]

印

死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所

所屬部隊 第一三五飛行場大隊

徵集年

官等級 陸軍一等田長  
氏名

右ノ者昭和二十年六月二十九日 時

分ルソノ兵ニ於テ軍務ニ依リ戰傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十二年四月二十五日

所屬部隊司令 陸軍

官等級 陸軍少尉

氏名

注 一、死亡場所、受傷部位、病状等ハ別シタルモノハ詳細ス

一、遺名ハ中、小隊長、中隊長、班長等ト詳記ス

(新字)

15-11

1334



地方世話部 死亡者認定票 昭和 年 月 日 調製官 氏名

所屬部隊名 固有名称 第一航空情報連隊 通稱 威第 九一六部隊

本籍地

徴用種別 豫備役 兵 飛行兵 級官 前亡死 上等兵 後亡死 任長 氏名

死亡年月日時 昭和 年 月 日 死亡場所 八洲之クラシカニ

死亡區分 戦死 戦病死 戦傷死 傷病名

現住所 概 父 氏名

留守者

昭和三年六月十日中隊ハ左記陸軍ノ東部岸邊ニ於テ中隊ニ死傷者ノ  
 東北方面ノ山嶺中ニ於テ六月三日ヨリ三日ヨリ陸軍大尉ニ依リ全ク  
 上着者ニ依リ前進花七百三十日ヨリ再戦能ハズ戦死ニ至リ死者  
 七人ニシテ依テ六月十日土曜死七人ノ上思者ハ一隊ヲ退却  
 大 確 証 (推定)

姓名	籍所	見
肥	保	抹
管	抹	有
抹	有	

死亡現認證明書

昭和二十二年六月十日調製

記載の上の理由 一現認事由は當時の情 一本人證明書は三 一階級は死す前 一死亡区分戦死の時 一死亡場 一死亡年月日 一死亡の確度	現認理由 昭和二十二年四月十日 新國病院 病院 一現認事由は當時の情 一本人證明書は三 一階級は死す前 一死亡区分戦死の時 一死亡場 一死亡年月日 一死亡の確度	死者 氏名 遠野達也	死前階級 陸軍少佐	本籍地 [Redacted]	所属部隊 固有各隊行第ニ戦隊 通稱機成第一八二二戦隊	死亡場所 在利實島島力ニ戦隊 在利實島島力ニ戦隊 在利實島島力ニ戦隊	死亡年月日 昭和二十二年六月十日 昭和三十二年六月十日 昭和三十二年六月十日	死の区分 戦病死 (一)	受傷箇所 [Redacted]	病名 肺炎 昭和二十二年六月十日 昭和二十二年六月十日
		元所属部隊 飛行第ニ戦隊	本籍地 [Redacted]	現住所 石岡	階級氏名 [Redacted]	氏名の下 [Redacted]				

三の  
天

御書面拜見しました。復員業務の御世話減に御苦勞探です。

28-12

威オ九一九八部隊

じて居り、その御報告いたしやう。同君とは立川整備は後時代からウ

親友で、昭和十九年七月廿一日、共に神戸塔を去航し(帝皇丸)八月十九日夜

バレー海峡に海没、各々救助されマニラ上陸。九月、ストゥチバーゲ・クラークマイル

ド飛行場に於て、私と[ ]君の二名は三〇戦隊に転属し、同月廿一日アヘレス西

飛行場に機動。[ ]大いに元氣ではあつたが、当時多少の沖至衰弱のきみ

がありました。十月の末戦隊はバニバン飛行場に機動しましたが、向もなく

[ ]は大腸腺で入院し、一月後退院、すつかり元氣になつてゐました。

翌廿年正月十日、三〇戦隊も他の[ ]の部隊と共にバニバンを発して北部呂

宋への逃避行。二十日の行軍に出発。

一月廿五日、北部呂宋サンチヤゴに宿営中、[ ]以下オニ少隊

属)オニ少隊はツゲガラオ飛行場に向け去発。小生の居たオニ少隊のみ

エチヤード飛行場に止るるになりました。[ ]と別れたのは即ちこの時で

す。

その後(廿年四月末頃)ツゲガラオより徒歩連絡があつて、[ ]以下多



その後(七年四月末の頃)

ウゲガラオより徒歩連絡がなされて、  
救台地より小隊に機動した事を知らされたが、  
ウゲガラオは残つて来た由です。

ウゲガラオの三〇戦隊の残留者が全部エケヤーゲに引上げず、

東しましたが、当時ウゲガラオにあつてマリアアが激しく、ウゲからエケヤーゲ

への行軍にたえられなかつたので、数多の部下(ウゲもマリアア)と共にウゲガラオに

残されたさうです。残るながら姓名を知らせし。

六月に入つてからは日に日に状況悪化し十日以内に我々はエケヤーゲを脱出して、カ

ジャン溪谷の山間へ入りました。その頃私は集成飛行隊本部に転属して、カ

したが、三〇戦隊はその令下にあつたので、内訌の状況もよくわかつてゐるやうに、

と私の交渉はこれだけであつたに終りました。

考へますうちに、ウゲガラオの機動けなくなつてゐる時に、敵に唐突して戦死

をしたが、山に入つて、戦病死したものが、ウゲから知らしと思ふ(ウゲ)。

ウゲ親隊へは、復員直後、ウゲを更に詳細に知らせし、おきました。

長く行動を共にしたウゲの事は、今も私り念頭を去りません。残念なるで

試験するのむにてとりいそが、  
乱筆ウゲ汗と下さい。

戦時死亡者現認證明書

和歌山県和歌山市 和歌山中央	時日	死	戦時
昭20.6.末	場	死	戦時
ルソノ場イホ 陣地後方山中	所	死	戦時
死亡七九七	分區	死	戦時
大足本2サノ唐 行軍中落込又	事由	死	戦時
	大略	死	戦時
昭20.12.12	氏名	死	戦時
年月日	氏名	死	戦時
(父)	住所	死	戦時

右現認す

昭和二十二年五月十日

現生所  
和歌山県和歌山市

和歌山県和歌山市  
官等該氏名天陸軍曹長

上陸地名石名古屋  
上陸日昭20.6.末  
上陸地支局に於て連絡済み也

調製上の注意

- 一、所属部隊は通称、固有名称を主として別冊程度に記入のこと
- 二、上陸地名は未得の限り詳細に特定する由地名を添付(受領)入帳年月日入帳地を併記すること
- 三、上陸日未得の限り、上陸地支局に於て連絡済み也
- 四、上陸地支局に於て連絡済み也

20-12

1339

死亡者現認證明書

所屬部隊固有公弟上航層報隊 遺孀 威一八九一大部隊

本籍地

徵集 九軍 役 二回

獎 考兵 級一兵

年 月 日 年 月 日

人

死亡年月日時刻 昭和五年六月 日 時 今死場所 比島 呂宋島 伊木  
死亡原因 戰死 死 傷病 腹部砲彈破化創

發(受)病(傷)在(留)留(留) 年 月 日

現住所

遺孀 姓名

遺孀 姓名

遺孀 姓名

遺孀 姓名

遺孀 姓名

遺孀 姓名

上陸年月日 昭和五年十一月三日

1340



現認證明書

本籍地

竹属部隊 菅原 謙

階級 元前 陸軍 伍長

氏名

一 死亡年月日

昭和二十年六月下旬日

時

分

一 死亡場所

カハヤン山中

一 死亡区分

一 傷(病)名 左足 踵 右足 大退部 貫通

一 遺骨(品) 現

一 死亡時状況

昭和二十年六月十四日右ノ者ヲ連我山中ニ歩行中ニ困難伴ハ遂ニ一六日頃  
別其右不明也後續部隊ノ言ハ依ルニ途中自決セリト聞キタリ

右現認ス

昭和二十年六月三日

現認者

現任所

竹属部隊 行方九五隊

階級 陸軍 曹長 氏名

# 死亡事實(現認)證明書

本籍地

[Redacted]

現住所 本籍地ニ同シ

所屬部隊 威才四十二部隊

召集年 昭 一六 氏名 [Redacted] 官等級 陸軍一等兵

有之者昭和二十年六月三日 時

於此年三月二日於榮幸夫會ニ依リ戰死

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十一年五月五日

所屬部隊

職名 威才四十二部隊隊長

官等級 陸軍中尉

氏名

[Redacted]

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス  
二、職名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

32-11

1342

# 死亡事實(現認)證明書

本籍地

[Redacted]

現住所

所屬部隊

野地島六八隊

徵集年

官等級

上等兵

氏名 [Redacted]

右ノ者昭和三十年六月下旬日 時

分<sup>ル</sup>ノ<sup>ル</sup>ニ<sup>於</sup>テ<sup>死</sup>傷<sup>部</sup>位<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>戰<sup>傷</sup>痛<sup>死</sup>シタル<sup>事</sup>ヲ<sup>證</sup>明<sup>ス</sup> (現認)ス

昭和三十年 月 日

所屬部隊

職名 野地島六八隊

官等級

[Redacted]

氏名

注 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明スルモノハ詳記ス  
二、職名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

28-11



現認(事實)証明書

本籍地

所属部隊 固有名 第一〇三師団輜重隊 通稱名 抜一〇九八

徴集年 昭和三十二年 役種 務員 兵種 陸軍兵

官等級 昭和 年 月 日 役令 氏名

上等兵

年 月 日生

- 一 死亡年月日時分 昭和三十三年六月二十三日 時 分
- 二 死亡原因及備姓名 戦死
- 三 死亡場所 比島、シイノ島、西岸カシキボ、付近
- 四 死亡状況 不明

- 五 遺骨及遺品の有無 有
- 六 死亡に関する書類の有無 有

右の通り相違ない事を証明する

昭和三十三年五月二十三日、元所属部隊(固有名)第一〇三師団輜重隊 (通稱名) 抜一〇九八部隊

現住所

舊職官等氏名

一 死亡者本籍地

二 遺骨遺品者の住所 氏名

右の通り相違ないことを証明する

昭和三十三年六月二日

印

現認證明書

此係米達威第三五部隊 [redacted] 隊

陸軍一等兵 [redacted]

右者昭和三十年六月三日日ルソニ多由部山中於テ  
マラヤ病迄 依リ戦病死(コレトヲ現認ス)

昭和三十一年一月八日

現認者元

此係米達威

威第三五部隊

[redacted]

隊陸軍

階級

伍長

現住所 [redacted]

氏名 [redacted]



昭和二十一年六月  
陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

戦死不明者の記録簿

銃筒末ノ銃隊

昭和二十一年六月  
同日  
同日

死亡年月日

昭和二十一年六月十日

死亡場所

正島市カノ附近

戦死

戦死

乙

死亡時の年齢

二十

資料提供者

中隊長

二十一年六月



者	現		亡		死	
	現執事由	證明年月日	傷病名	死亡場所	死亡區分	死亡年月日
昭和二十二年六月三日午後八時、全隊後援隊、 敵砲彈直撃、死傷、六月三日、野道中、 昭和二十二年三月三日	敵三六九部隊	隊員等姓名	砲彈直撃	此野道中、比方約二十軒	戰死	昭和二十二年六月三日午前八時頃
昭和二十二年六月三日午後八時、全隊後援隊、 敵砲彈直撃、死傷、六月三日、野道中、 昭和二十二年三月三日	隊員等姓名	隊員等姓名	砲彈直撃	此野道中、比方約二十軒	戰死	昭和二十二年六月三日午前八時頃
昭和二十二年六月三日午後八時、全隊後援隊、 敵砲彈直撃、死傷、六月三日、野道中、 昭和二十二年三月三日	隊員等姓名	隊員等姓名	砲彈直撃	此野道中、比方約二十軒	戰死	昭和二十二年六月三日午前八時頃

注意

本證明書は、戦死者の遺族に交付するものであり、戦死者の遺族が、戦死者の遺族であることを証明するに必要とする。戦死者の遺族が、戦死者の遺族であることを証明するに必要とする。戦死者の遺族が、戦死者の遺族であることを証明するに必要とする。

死亡現認書

一 元陸軍上等兵

右ニ聞ス件

一 昭和二十年六月三十日アイソリン群島ハム

島イサベニ洲オスカリス西カ山麓ニ於テ大腸炎

ニ依リ死亡ス

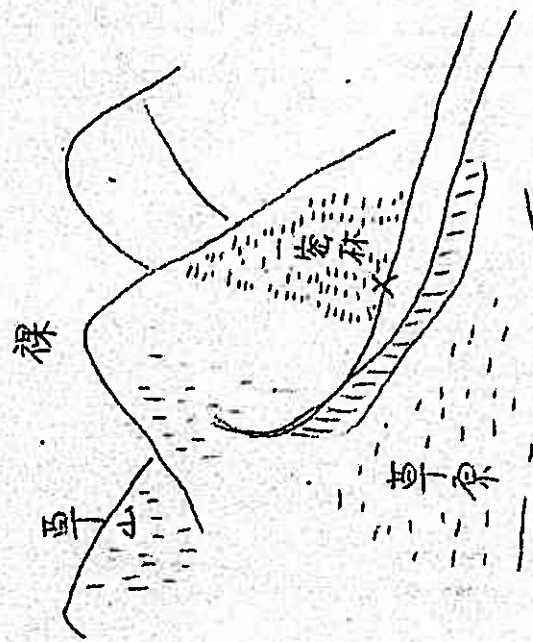
右現認ス

ニ第百三師団防疫給水部陸軍曹

字

本寫本ニ相違無キニテ證明ス

昭和二十年六月八日



又印地長ニ於テ  
自思フ失ト同地案  
ヲ離ルニ得テ年月  
三ノ日ニ於テ上認ル

書 明 證 認 現 確 亡 死 邦・海・陸

資 料 提 住 者		死 亡 者						死 亡 時 所		所 屬 (所 轄)		部 隊 又 は 職 名		域 名	
死 亡 知 っ た 方 法		諸 元		死 亡		死 亡 時 所		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		通 稱		固 有 名	
		死 亡 事 由 (傷 病 名)		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 時 期		発 病 場 所		区 分		所 属 部 細	
から聞いた		敵機の空襲直撃		昭和20年6月下旬		※ 戦 況						内 容		属 所 部 細	
係関のと者亡死		※		※		※		※		※		容		面 局 区 地	
知 人		※		※		※		※		※		種 兵		種 役	
所 住 現		※		※		※		※		※		者 当 担 守 留		死 亡 時 の 階 級 (業 職 名 職 は 又)	
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		名 氏 所 住 現		人 名 氏	
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		続 柄 (甥)		本 籍 地 に 同 じ	
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		死亡当時の状況及び参考資料		年 月 日 生	
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		昭和19年には比島ミナガオ島にも徴兵令が 発せられ現地に赴き、在留邦人の元氣 な男子は、これに先立って命令により 徴用された。義勇隊、輸送隊等に 徴用された。		女   男	
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		「本人も比島派遣軍のミナガオ警備隊 の夜糧生産隊に徴用され、軍の夜糧生考 に従事している時B29の空襲をうけ防空壕に直 撃をうけ戦死したことを聞いた、本人の兄弟、 から聞く、本人は父の滞りの防空壕に入ら ないで助かった			
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		附 級 名 氏			
所 属 部 隊 所 属 職 名		※		※		※		※		※		名 氏			